

中学社会2年 年間学習指導計画・評価計画

第4節 中部地方 (8時間)

<目標>

- 中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解する。
- 産業を中心とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。
- 中部地方において、産業の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目させ、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察、表現する。
- 中部地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。

<内容のまとめごとの評価規準>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。 産業を中心とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。	中部地方において、産業の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	中部地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

◎成績をつけるための評価（総括的評価） ○指導に生かすための評価（形成的評価）

月	学習項目 <配時>	ねらい・学習活動	観点別学習状況の評価規準及び評価の方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小単元をつらぬく課題 中部地方に特色ある産業が発展した理由から、石川県の未来を考えよう。					
11	1 中部地方をながめて① 中部地方の生活の舞台 (p. 215~217) 「日本の屋根」 三つの気候	第1時くなぜ私たちは「中部地方」より「北陸地方」になじみがあるのだろうか～気候・人口～ ・中部地方は北陸、中央高地、東海でそれぞれはっきりと異なる地形や気候がみられ、産業や人々の暮らしにも特徴があることを知る。 ・石川県にはどのような特徴があるのか、「石川の特性（強みと課題）」を確認する。	○中部地方の自然環境の特色と、東海、北陸、中央高地の気候的な違いを、地図や雨温図を使って読み取っている。(知能) ○中部地方の地域による気候の違いを、地形などの自然環境と関連付けて理解している。(知能)		○中部地方について、特色ある産業を中心としてこれからの課題を追究しようとしている。(態度)
	2 中部地方をながめて② 中部地方の人々の営み (p. 218~219) 平野、盆地に集中する人口 盛んな工業、農業、観光産業 今に残る歴史的な町並み	第2時くなぜ中部地方には伝統的工芸品が多いのだろうか～伝統産業・地場産業～ ・北陸地方・中央高地・東海地方の3つの地域から成り立つ中部地方は、それぞれの地域の自然や歴史を生かした特徴ある地域の産業が発展し、地場産業となっていることを説明する。	○中部地方の人口分布や産業の地域による違いを、地形や気候などから捉えている。(知能)	○中部地方の各地域で発達する地場産業の背景を地形や気候、歴史的背景などから捉え、表現している。(思判表)	
	3 活発な産業を支える人々の暮らし① 工業の発展と地域の変化	第3時く中京工業地帯ではなぜ輸送機械工業が発展したか～工業～ ・これまで学んだ中部地方の自然条件や社会条件	○東海と北陸の工業の特色を、自然的条件や社会的条件と関連付けて理解している。(知能)	○中部地方における工業の成立条件をふまえ、中京工業地帯の将来について、自然条件や社会条件の	

	(p. 220~221) 東海の工業 変容する工業地域 雪国で育った伝統産業	件から、東海地方に自動車工業を中心とした輸送機械工業が発展したのかを考察する。 ・脱炭素社会など最近の動向をもとに日本の中心産業でもある自動車産業の今後について考える。		両面から多面的・多角的に考察し、表現している。(思判表)	
4 活発な産業を支える人々の暮らし②	自然環境を生かした各地の農業 (p. 222~223) 盆地と高原の農業——中央高地 人々が築いた産地——東海 日本の米所——北陸	第4時<なぜスーパーのチラシに中部地方の県名が多いのだろうか?~農業~> ・中部地方の農業の特色を知る ・中部地方はその自然環境の特色を利用した農業が昔から発展していることを知り、また交通網による大消費地とのつながりの重要性に気付き、次時に繋ぐ。	○中央高地、東海、北陸各地域の農業の特色を、自然の特色や交通の発達などを示す資料と関連付けて捉え、理解している。(知技) ○写真や出荷量のグラフから農業の特色と各農家の工夫と努力を読み取り、理解している。(知技)		
5 活発な産業を支える人々の暮らし③	世界と結び付く中部地方 (p. 224) 名古屋大都市圏と世界との結び付き 日本海を舞台に活性化する北陸	第5時<中部地方にとって東海北陸道の整備はどういう意味があるのだろうか?~交通網~> ・中部地方の産業の発展と交通網の関わりを知る。 ・大陸との結びつきが強くなる中で、北陸と東海の物流の重要性は増していることを捉えている。	○名古屋大都市圏と北陸の世界との結び付きを、地域的特色と関連付けて捉え、理解している。(知技)	○北陸と他の中部地方の地域、さらには国内外とのつながりに着目し、交通網がその地域の産業の発展にどう関わるか多面的に考察し、まとめ、表現している。(思判表)	
6 まとめ	第6、7時 <なぜ中部地方では特色ある産業が発展したのだろうか?>	・中部地方の特色ある産業が発展した理由を持続可能性という視点も含めて、考察しまとめる。	◎産業を中核とした考察のしかたで、中部地方の産業の特色を理解している。(知技)	◎中部地方の産業の特色や、それらが抱える課題について多面的・多角的に考察し表現している。(思判表)	
まとめ 例) 中部地方の産業は、その地域ごとの地形や気候などの自然環境の特色や歴史的背景、高速道路や鉄道、港湾や空港といった様々な交通網の発達を背景として、各地域で特色あるものに発展していった。しかし交通や自動車産業を中心とする中部地方の産業はこれからの循環型、脱炭素社会に対応していくなければならないと考えられる。					
	・まとめをふまえて、石川県の様々な特色・強み(弱み)を活かすための金沢港の活用プランを個人から全体交流で考え、次の準備をする	○金沢港の写真や出荷量のグラフからその役割や現状を読み取っている。(知技)			
	第8時 本時<石川の特色を活かすための金沢港活用ベストプランを提案しよう> ・中部地方の産業の学習を活かし、石川県が整備する港湾が日本海を舞台に果たす役割を、住民として、また行政の立場から多面的に考える。		◎北陸と他の中部地方の地域、さらには国内外とのつながりに着目し、交通網がその地域の産業の発展にどう関わるか多面的に考察し、まとめ、表現している。(思判表)	◎よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。(態度)	
提案 例) 石川県の強みにもあったニッセイトップ企業数の多さや、自然災害が少ない立地環境の良さを活かし、金沢港の周辺に県外からの誘致も含めたニッセイトップ工業団地を建設しものをづくりをさらに推し進める。					